

研究分野	呼吸リハビリテーション, 摂食嚥下リハビリテーション, 疫学調査
キーワード	呼吸器疾患, 摂食嚥下, 高齢者, リハビリテーション

慢性閉塞性肺疾患（COPD）の早期発見、 ならびに呼吸障害、摂食嚥下障害に対す るリハビリテーションの効果の検証



福祉健康科学部 福祉健康科学科 理学療法コース

<http://www.oita-u.ac.jp/>

教授 朝井 政治 (Masaharu Asai)

研究概要

1. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）に関する疫学調査

たばこ煙などを長期間にわたって吸入することによって発症する COPD の患者を早期に発見し、継続的な治療を行うシステム作りに携わってきました。

現在は地域住民を対象とした「肺年齢」測定を実施しています。

2. 呼吸ケア・呼吸リハビリテーションに関する研究

これまで急性呼吸障害から慢性呼吸不全までの呼吸リハビリテーションに幅広く携わり、人工呼吸器からの早期離脱のための介入とその効果判定、安全に離床を行うための方法の検討、呼吸困難の強い患者に対する呼吸リハビリテーションの提供と効果の検証等を行ってきました。

3. 摂食嚥下リハビリテーションに関する研究

健康な人にとって「食べる」ことは難しくありませんが、摂食嚥下機能が低下した方にとっては重大な問題です。摂食嚥下に関する直接的な介入だけでなく、身体機能の低下した方の体力作りや誤嚥性肺炎予防など「安全に食べる」ための研究を行ってきました。

アピールポイント（技術・特許・ノウハウ等）

- 「肺年齢」測定により、住民の COPD への関心を高め、COPD の早期発見につなげることができる。さらに、呼吸リハビリテーションの実施によって COPD の重症化を予防できる可能性がある。
- 急性期から慢性期にわたる幅広い呼吸機能障害患者に対して、呼吸ケア・呼吸リハビリテーションに関する支援が行える。
- 摂食嚥下障害患者だけでなく、高齢者に対して「食べる」ことに加え、「肺炎予防」や「口腔ケア」など多角的な支援ができる。

応用可能な分野

- 「肺年齢」測定による禁煙の啓蒙、COPD の早期発見、早期介入への支援。
- 呼吸機能障害を呈する患者に対するリハビリテーション機器の開発。
- 高齢者の摂食嚥下機能、栄養状況評価実施による虚弱高齢者の抽出。虚弱高齢者に対する運動、食事指導を含めた多角的アプローチの実施とその効果判定。